

新春号



JAみやざき
高千穂地区本部

心をつなぐJA広報

かるめご

2025
No.369

1

January

JA みやざき
高千穂地区本部
公式LINE





高千穂牛

次世代への期待～畜産業の新たな取り組み

- テーマ -

新春対談

令和6年度の授精状況は、桃白、福晴茂、白隆鵬、孔明桜、英白清

まず、令和6年度11月末の販売実績を申し上げます。畜産累計は13億4千7百万、実績対比96.2%です。子牛については、9億9200万で実績対比92.6%であり、子牛の上場頭数は昨年11月末で2378頭でしたが、本年度は2280頭です。成牛の上場頭数は、11月末487頭です。肥育牛は、11月末で2億2500万、実績対比100.3%となっています。令和6年度11月の県内の子牛セリ市況は、県内7市場中6市場で前回の子牛価格を上回る結果で終わりました。マルキンの発動等により若干の子牛価格の上昇があったと思われます。



畜産部市場課 権藤正和 課長

日頃より畜産振興において多大なご高配をいただきありがとうございます。畜産を取り巻く状況におきましては、ご承知のとおりで、農産物全体としても上昇する生産コストを価格に転嫁できていないというのが課題です。本日の対談が将来の高千穂牛の発展振興に役立てばと考えます。よろしくお願ひします。

畜産の現状と課題

J A 本部長

生産課長から県共の報告がありました。共進会では良い結果が出て、セリの価格に反映されたいのが悩ましいところです。飼養頭数が4000頭を下回ったということで、今後市場運営が厳しくなり、私たち生産農家は高千穂でセリ市ができなくなるのではないかと心配しています。今後の対策が必要だと考えます。



高千穂地区 畜産連絡協議会 佐藤高明 会長

この様な中ですが、10月に開催された第65回宮崎県畜産共進会(種牛の部)では2大会連続で団体優勝の成績を残すことができました。令和9年開催の第13回全国和牛能力共進会の出品対策も始まっており、若雄、種牛、肉牛3部門すべてでの候補牛作出を目指して取り組んでいます。



畜産部肥育課 木下敏幸 課長

現状は高千穂の佐藤会長がおっしゃったことが主です。マルキンを含めた様々な支援を頂き有難いことですが、牛を生産していくうえでは全然足りない状況です。

佐藤紀文畜産部長

現状をお話いただきありがとうございます。共進会では品位を競う、セリでは血統構成等の要因も加えられるためなかなか価格転嫁できていないのが実情です。



五ヶ瀬町 畜産振興協議会 渡辺 恵 会長

日之影は若手の生産者が少ないことが課題です。高齢の方が多く10年もすると頭数を減らしたり辞めていく方がおられると思います。日之影にはモデル的な放牧地があります。生産コストを抑えるためには効果的ですが、条件や集落の協力等も必要とすることからなかなか浸透していかないのが現状です。



日之影町 肉用牛振興会 甲斐耕一郎 会長

繁殖同様肥育農家も厳しい状況です。私たちは高千穂市場のみで素牛を導入しています。もちろん今後も高千穂牛を守っていくために高千穂市場で購入していくと思いますが、子牛の頭数減少によりセリの日数減少や別市場との合同等、高千穂市場の維持が困難になるのではないかと心配です。また、エサ代の高騰に対してJ Aとしてなんとか下げる努力を示していただけたらと思います。

瀬井明人生産課長

生産課では、農家個別に飼料給与体系の改善の指導、飼養管理の指導を重点的に行い生産性の向上につなげる取り組みを行っています。また、県域での自給飼料の確保に、組合員の所得向上につなげていきたいと考えています。

佐藤孝輔会長

と比べると120円程度下がりました。年末需要期に向けて少しずつ上がってきているようです。枝肉成績は、BMS No.の平均が去勢で9.8、雌で9.5と種雄牛の改良、飼養管理技術の向上によりサシは年々上がってきています。しかし、一頭の肥育牛を作るのにかかる経費はエサ代の高騰などの影響で60万近くかかっているのが現状です。



高千穂地区本部長 佐藤 友則

本年が皆様にとって幸多き年となりますことを祈念申し上げ、年頭にあたってのご挨拶と致します。

J Aみやざき 組合長 栗原俊朗

新年明けましておめでとうございます。組合員・地域の皆様におかれましては穏やかに新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。旧年中は当組合の事業に対しご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、国内経済はもちろん地域・農業を取り巻く環境には大変厳しいものがありました。その様な中での農業生産でありましたが、当地区の農産物が国内外にその高品質が認められた年でもありました。第65回宮崎県畜産共進会種牛の部では昨年度に続き「団体優勝」さらに枝肉の部でも高い評価を受け、農産部門でも釜炒り茶・乾椎茸が各種大会で入賞するなどその品質が高く評価されました。偏に生産者の皆様方のご苦勞に対し敬意と感謝を申し上げます。

さて、本年3月には中央会・経済連・信連・畜連等が包括承継されます。当地区においては、事業量の縮小とともに、如何に組合員サービスを低下させずにどう事業を継続していくかが問題となってきます。その様な諸課題を、J A・連合会が統合しJ Aグループ宮崎の総合力を発揮する事で、今後想定される課題解決及び農業振興や営農支援機能の維持強化等が期待されます。

これからもJ Aは、長年築き上げた地域社会からの信頼を基盤に、総合事業を通じて条件不利と云われるこの中山間地域で「農地・地域」を守るとともに、将来に亘って持続可能な農業経営が確立される体制整備と地域の活性化に向け、役職員一丸となって積極的に取り組みますのでさらなるご支援ご協力をお願い申し上げます。

J Aみやざき高千穂地区本部 本部長 佐藤友則



J Aみやざき組合長 栗原 俊朗

新年あけましておめでとうございます。皆様には、旧年中J Aみやざきの事業・活動に対し、格別のご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。新しい年を迎え、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年は、地震や突風、大雨などの自然災害や異常気象による農産物の不作や世界・国内情勢などによる飼料・資材・燃油価格の高止まりなど、農業経営への影響も多大なものがありました。また、鳥インフルエンザが宮崎を含め全国各地で発生したほか、国内で初めて牛ランピースキン病が確認されるなど、改めて家畜防疫の徹底に対し気を引き締め直したところでもあります。

国では、食料・農業・農村基本法が25年ぶりに改正され、食料安全保障の強化とともに食料や生産資材の国内生産力拡大などを進める方針が打ち出されるなど、農業構造転換に向けて政府はかじ取りを進めております。私たちJ Aみやざきも、昨年4月に宮崎県内の13J Aが一つになり、J Aの単一組織で農畜産物販売額が全国最大となる組織となりました。現在、組合員の皆様のご協力と地域の支えをいただきながら、少しずつではありますが業務集約による合理化やスケールメリットの発揮に向けて基盤整備を進めているところです。

本年は、3月1日にJ A宮崎中央会、J A宮崎経済連、J A宮崎信連に加え、3つの畜連(西諸、児湯、東臼杵)が「J Aみやざき」に統合します。販売や仕入機能の強化、各部門の専門性向上などに取り組み、今後の厳しい環境変化に対応できるよう組織基盤を固め、組合員が安定的に営農活動を継続できるよう各支援機能やサービスの充実・向上に向けて取り組んでまいります。

皆様と共に明るい未来を築いていけるよう、役職員一同全力を尽くしてまいりますので引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が皆様にとって幸多き年となりますことを祈念申し上げ、年頭にあたってのご挨拶と致します。

J Aみやざき 組合長 栗原俊朗

新年明けましておめでとうございます。組合員・地域の皆様におかれましては穏やかに新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。旧年中は当組合の事業に対しご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、国内経済はもちろん地域・農業を取り巻く環境には大変厳しいものがありました。その様な中での農業生産でありましたが、当地区の農産物が国内外にその高品質が認められた年でもありました。第65回宮崎県畜産共進会種牛の部では昨年度に続き「団体優勝」さらに枝肉の部でも高い評価を受け、農産部門でも釜炒り茶・乾椎茸が各種大会で入賞するなどその品質が高く評価されました。偏に生産者の皆様方のご苦勞に対し敬意と感謝を申し上げます。

さて、本年3月には中央会・経済連・信連・畜連等が包括承継されます。当地区においては、事業量の縮小とともに、如何に組合員サービスを低下させずにどう事業を継続していくかが問題となってきます。その様な諸課題を、J A・連合会が統合しJ Aグループ宮崎の総合力を発揮する事で、今後想定される課題解決及び農業振興や営農支援機能の維持強化等が期待されます。

これからもJ Aは、長年築き上げた地域社会からの信頼を基盤に、総合事業を通じて条件不利と云われるこの中山間地域で「農地・地域」を守るとともに、将来に亘って持続可能な農業経営が確立される体制整備と地域の活性化に向け、役職員一丸となって積極的に取り組みますのでさらなるご支援ご協力をお願い申し上げます。

J Aみやざき高千穂地区本部 本部長 佐藤友則





ミートセンター・レストラン
芥川英俊 施設長

令和5年度ミートセンター・レストランの収益は3億6千万円で、そのうち肉の仕入れは1億8千3百万で、肥育牛の販売頭数の約20%をミートセンターで仕入れている状況です。また、令和5年度ふるさと納税の返礼品の金額が3町合計で3490万、件数は7400件です。これだけの利用をみますと、高千穂牛の知名度というのは以前より上がってきているのではないかと感じます。

おいしさ日本一の名のお肉、レストランに来店される国内外のお客様からは脂身の口溶けが良く旨味があると高い評価をいただいています。最終出口の場所である私たちは、畜産農家が丹精込めて育て上げた牛の命をいただき無駄にすることなくお客様に提供することとまた全国へ届けていることを常に考えておくことで、皆の思いがひとつになつていくのではないかと感じます。

行政の立場から



西白杵支庁
農政水産課
田口 保 課長

肉用牛生産は、当地域の農業を支える重要な基幹産業であり、県としても当地域における畜産振興は欠かせないものであると考えます。県では、3つの柱立てを行い各種施策に取り組んで

いるところです。農家経営の安定として従来のセーフティネット対策や各種金融対策など、生産基盤の維持強化では国の対策と連動して母牛更新の補助、自給飼料生産に必要な施設や機械の導入、放牧の推進等を行っています。管内では、年度末までに母牛更新を50頭、飼料生産に必要な機械や電牧柵等の導入を20数件予定しています。また、消費喚起、販路拡大としてこれまでの出口対策に加え県民向けの消費拡大キャンペーン、インバウンド向けの需要創出として大都市圏でのホテルコンシェルジュを対象としたセミナーの開催等を行っています。

新たな取り組みとしては、令和6年度から国の事業として新設された畜産クラスター実証支援事業「子牛価格向上対策」に、当地域では7月から関係機関で構成される西白杵地域肉用牛クラスター協議会が取り組んでいます。この事業では、母牛の生産性向上と魅力ある子牛づくり、高収量・省力的な飼料生産、市場出荷牛の追跡調査による情報収集・分析という3つのテーマを設定し様々な実証事業を行っています。これらの取り組みを3月までに実施し、西白杵地域一体となって子牛価格の向上などを目指すこととしています。



高千穂町役場
農林振興課
佐藤峰史 課長

農家の高齢化、担い手不足は畜産のみならず高千穂の農業振興全体に関

市場日程については、毎月セリを行っている市場が優先されているのが近年の現状です。母牛頭数が減少している今、県内他市場どこも状況は同じです。当然その日程のあり方については、令和8年より何か変えていかなければならない状況にあると考えます。



畜産部生産課
瀬井明人 課長

優良牛の表示については、以前は行っていました。個人情報の観点などあらゆる理由から表示しなくなってきた経緯があります。ただ少しでも競争意欲を持つといった点や情報提供との考えから価格に反映できるのであれば今後議論する必要があると思います。

権藤正和市場課長

市場課としても、今後も子牛の上場予定の情報提供を行いながら、購買者誘致を進め子牛価格の安定また上昇に向けて一層取り組んでいきたいと思えます。

芥川英俊施設長

牛の導入奨励事業は多く充実した支援が受けられます。地域の先頭に立つ振興会長さん方は、厳しい話だけでなく優良牛の導入が生産基盤の強化につながることを、それが市場評価を形成しさらに生産意欲につながっていくってほしいと感じます。

わる大きな問題であり、畜産経営は昔から地域に根差したもので農村の維持についても重要な役割を果たしている」と認識しています。

町としては、多くの優秀系統牛を地域内に保留させるための優良牛増殖奨励事業という事で、令和5年度には保留等147頭に対して補助を出しています。また、繁殖素牛改良更新促進事業や肥育に関しては、ブランド確立のための導入助成等も行っていきます。また、畜産ICT管理機材導入事業として牛温恵に補助を出しています。これらは生産基盤の維持に貢献できればと思っています。人材の育成についても大切な事で、国の事業に該当しない担い手の方につきましても高千穂町就業資金補助金を活用して若手農家の支援等を行っています。

出口対策としては、学校給食に地元食材を使用したぬくもりランチを提供し食育等に取り組みむことや、購入された商品の町外への送料等を支援したりと高千穂牛の消費拡大に寄与できればと思っています。今後少しでも長く肉用牛の飼養を続けられるように、また中核の担い手の方に対しては今話したような事業を関係機関と連携しながら取り組む必要があると考えます。



日之影町役場
農林振興課
平川誠二 課長

日之影町も同じように子牛価格の低迷、飼料資材燃料等の物価高騰による畜産農家の経営悪化、高齢化・担い



高千穂町
肥育牛振興会
佐藤孝輔 会長

JAにおいて、中川センターが空いているのなら肥育牛を入れるなど買い支えとして新たな取り組みができないでしょうか。

佐藤紀文畜産部長

中川センターは確かに空いていますが改修が必要です。ただ保有率と購買率というのを意識しながら導入計画を立てていかなければと考えています。

佐藤孝輔会長

なるほどですね。人材不足や後継者不足が言われる中で、繁忙期などの手伝いなどでも海外からの人材派遣などを活用するのはどうでしょうか。

西白杵支庁 田口保課長

畜産農家の繁忙期などの手伝いという点ですが、県内には畜産農家の定休を確保するためのヘルパー組織が26組織あります。西白杵にはヘルパー組織はありませんが、若い畜産農家からは「あったほうがよい」という意見が聞かれます。一方で、飼養管理や金銭面での課題もありますので、今後管内の畜産農家とヘルパー組織のあり方等について意見交換を行ってきたいと思えます。また、外国人材の活用については

手不足による母牛頭数の減少が大きな課題として挙げられます。本町としては、母牛頭数の維持に向け畜舎等整備事業、飼料作物等増産体制整備事業やICTを活用したスマート機械の助成、放牧支援などの取り組みを行い農家の多頭化を支援してきました。また、畜産農家で組織する町の肉用牛振興会の活動や牛輸送組合の活動などソフト面での支援なども行い、畜産農家の負担軽減を図ってまいりました。今年のひのかげ渓谷まつりにおいて、肉用牛振興会等と協力し高千穂牛1頭分の販売促進活動を行ったところです。

今後、畜産農家の減少により日之影町全体の農地の荒廃が懸念されます。やはり畜産農家の方が農地を守っているという事が大きいので、今後も農家の方との対話を続けながら国・県・町がそれぞれの立場で連携して畜産農家の経営支援を続けていく必要があると考えます。



五ヶ瀬町役場
農林課
増永 稔 課長

五ヶ瀬町も近年、情勢の厳しさに高齢化等も加わりここ数年、農家数及び母牛頭数が減少するスピードが加速していると感じています。そのような中ですが、五ヶ瀬町には畜産青年部という組織があります。今現在13名の方が在籍し、独自で勉強会を開催するなど積極的に活動しています。母牛頭数は204頭で平均1戸あたり16頭の飼

五ヶ瀬町のお茶農家では外国人材を雇用している事例がありますが、県内の畜産農家で外国人材を活用しているというような話は聞いておりませんので、情報収集を行ってみたいと思います。

高千穂町 佐藤峰史課長

西白杵農業再生協議会の担い手部会でマッチングアプリのチラシを作成しています。こういったアプリの利用も考えてみるといういかもしれません。

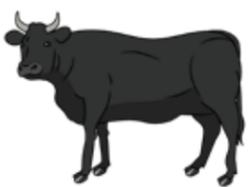
佐藤紀文畜産部長

様々な意見をいただき皆様の思いを再確認できました。まずは価格対策、そして生産基盤の維持。JA合併の利点を生かし、中央にも声を届けていかなければと考えています。



JAみやざき
高千穂地区本部
佐藤友則 本部長

この中山間地において畜産というのは中心的な産業です。今日の皆様の声をいかに今後に生かせるか、将来の希望を見出せるように対策に取り組んでいきたいと思えます。本日は貴重な意見をありがとうございます。また、外国人材の活用については



畜産部
佐藤紀文 部長

高千穂市場はセリの日程が常に最後の方です。そこに変化を与えて市場を変えていくことはできないでしょうか。また、市場で優良牛の表示をすると競争意欲も上がるのではないのでしょうか。

次世代への期待と想い

渡辺恵会長

高千穂市場はセリの日程が常に最後の方です。そこに変化を与えて市場を変えていくことはできないでしょうか。また、市場で優良牛の表示をすると競争意欲も上がるのではないのでしょうか。